

平成 22 年度 伝統的構法の設計法作成及び性能検証実験検討委員会

第 1 回 検討委員会（全体会議） 議事録

日時：平成 22 年 4 月 16 日（金）13:00～17:15

場所：立命館大学びわこ・くさつキャンパス エポック立命 2 1

出席者：鈴木（祥）、齋藤、小松、後藤、麓、北村、稲山、腰原、河合、岡田、近藤、西村、徳本、西澤、岩波、渡辺、清水、川瀬、古川、須田、鈴木（直）、北山、小澤、細入、白山、山田、向井、松本、棚橋、向坊、川端、中治、中尾、綾部、神田、橋本、鳴海、上田、菅野、木内、松井、宮本、上野、望月、和田、住吉、園田、北守、森田、佐々木、吉野、住岡、栗崎、築瀬、森、宮内、村上、

オブザーバー：越海、槌本

事務局：大江、奥田、長瀬、鳥巢、鹿磯

配布資料：「伝統的構法の設計法作成及び性能検証実験」検討委員会目的と実施体制（案）

## 議事内容

- 1 「伝統的構法の設計法作成及び性能検証実験」検討委員会目的と実施体制案及び委員の構成が示された。

（当日配布資料「伝統的構法の設計法作成及び性能検証実験」検討委員会の目的と実施体制（案）参照）

- 2 各部会の実施計画

委員会構成に基づき、設計法部会、実験検証部会、構法・歴史部会、材料部会の主査より部会の目的、運営方針、年次計画及びWGの方針が示された。

- （1）設計法部より配布資料に基づき部会の目的として

伝統構法の構造力学的に未解明な柱脚の移動や水平構面の変形などについて実験的、解析的に検討し、伝統構法の地域性のある構法や構造特性を考慮し得る伝統構法に適した設計法を構築するとともに、設計法の妥当性を振動台実験で検証する。

- ア 運営方針として

部会委員構成及び会議開催スケジュール及び設計WG、解析WG、設計技術マニュアルWGの設置が示された。

- イ 年次計画として平成 22 年～23 年までの計画が示された。またWGについての検討課題が示された。

- （2）実験検証委員会より配布資料に基づき部会の目的として

平成 22 年度は伝統構法の構造的な課題である石場建てに関して解明されていない問題に対して、振動台実験に基づき課題を明確にし、また限界耐力計算法による構造安全性の検討の妥当性を実証することが示され、また実験に要するWGの設置及び委員構成が示された。

### (3) 構法・歴史部会

ア 検討課題として伝統構法の調査報告、修理報告を収集し、構法の整理・分類をするとともに、構法の地域性や歴史の変遷を明らかにする。

伝統構法の構法仕様（継手・仕口仕様、軸組仕様、土壁・板壁仕様、床組仕様、基礎・柱脚仕様、軒廻り仕様、小屋組仕様、造作仕様など）を把握し、構造的特性を明らかにする。

伝統構法の設計法に生かすとともに、実務者、特に設計者に周知する。

伝統構法の技術的な背景と歴史的な変遷をまとめ、伝統構法を広く一般に広報する。

イ 年次計画として2010年～2012年の年次計画が示された。

ウ 部会委員構成が示された。（全体会議配布資料参照）

### (4) 材料部会

ア 材料部会の目的として

古材及び丸太材の材料特性を評価するとともに設計用データベースを作成する。

木材の乾燥法による材料特性や接合性能への影響を検討する。

節や割れなど木材の欠点を評価するとともに軸組の構造性能や接合性能への影響を検討する。

既存の伝統構法を対象に木材の腐朽・蟻害の実態調査を実施して木材の耐久性について検討し、耐久性評価法を確立する。

伝統構法に適した建築材の要求性能を明らかにして、要求性能を満足できる建築材の提供法（製造・流通法など）について検討し、建築材の提供法を確立する。

イ WGの設置について

WGとして、乾燥・欠点WG、腐朽・蟻外WG、古材WGの4WGの設置が示された。

ウ 平成22年～23年までの部会及び各WGの年次計画が示された。

### 3 事務局からの連絡事項を説明

(1) 事務局体制及び人員についての説明

(2) 各部会及びWGの運営についての事務処理等説明及びお願いについての説明

4 全体会議終了後に部会及びWG会議を行うこととした。

5 閉会